

スモモ「ハニーローザ」の若木に対するシートマルチの品質向上効果

スモモ「ハニーローザ」の若木では、樹冠下に収穫前約1か月間、シートマルチを敷設することにより糖度が高くなり着色が向上する。

農業研究センター果樹研究所落葉果樹研究室(担当者:岩谷章生)

研究のねらい

スモモ「ハニーローザ」は、食味が優れるものの、果実が小さいことから全国的に注目されてこなかった。しかし、近年の食味重視の消費動向から、本県では地産地消向け商材、新規特産品として、全国に先駆けて産地化を推進し、普及が始まっている。しかし、若木は成木に比べて低糖度傾向であるため、若木における収穫前のシート(不織布)マルチ敷設による品質向上により、「ハニーローザ」のブランド確立を図る。

研究の成果

1. 3~4年生程度の若木では、果実が低糖度傾向である(表1)。
2. 若木では、収穫前1か月間(梅雨開始前~)樹冠下にシートマルチを敷設することにより、無処理区より糖度が約2度高くなり着色が向上する(表2)。
3. 1果重、果肉硬度、pH、裂果の発生についてはほとんど効果が認められない(表2、3)。

普及上の留意点

1. 若木ではシートマルチにより着色が促進されるため、無処理と同等の着色基準では未熟果を収穫するおそれがある。したがって、5分着色(無処理では3~5分)を目安として収穫を行う。
2. 本技術により若木での品質向上が可能となるが、これと併せて、摘果や枝梢管理を徹底しなければ「ハニーローザ」本来の食味は期待できない。
3. 本技術は7年生程度までの糖度の低い園において特に高い効果が見込まれる。

表1 『ハニーローザ』の樹齢による果実品質の推移

調査年	樹齢	1果重 (g)	糖度 (Brix)
1987年	3年生	32.6	12.2
1988年	4年生	52.8	11.6
1989年	5年生	45.2	14.2
1990年	6年生	38.2	15.8
1991年	7年生	40.4	13.6
1992年	8年生	47.7	17.6

表2 『ハニーローザ』若木における不織布マルチ敷設による果実品質への影響

調査年	樹齢	試験区	1果重 (g)	糖度 (Brix)	果肉硬度 (kg)	着色程度	pH
2004年	4年生	マルチ敷設区	50	17.9	1.4	3.9	3.9
		無処理区	48	16.1	1.3	3.4	4.1
2005年	5年生	マルチ敷設区	45	17.9	1.4	4.2	4.2
		無処理区	45	17.3	1.4	2.8	4.2
2006年	6年生	マルチ敷設区	50	18.0	1.4	3.1	4.1
		無処理区	52	15.8	1.3	2.7	4.2
2007年	4年生	マルチ敷設区	40	15.1	1.5	-	4.1
		無処理区	37	12.4	1.5	-	4.0

注) 果肉硬度はユニバーサル硬度計(針頭は円錐形12mm)による

着色程度は達観により、6(着色良)~1(着色不良)とした6段階評価の平均値

2004~2006年は果樹研究所内圃場の平棚仕立て栽培樹各1樹、2007年は玉東町現地圃場の立ち木仕立て栽培各3樹を供試

表3 『ハニーローザ』若木における不織布マルチ敷設による裂果への影響

調査年	樹齢	試験区	裂果程度(個数%)			
			0	1	2	3以上
2005年	5年生	マルチ敷設区	66	21	8	5
		無処理区	61	22	10	6
2006年	6年生	マルチ敷設区	64	24	5	7
		無処理区	69	14	10	7

注) 裂果程度は0:裂果無し、1:果肉に達しない裂果、2:果肉には達するが痕が乾いた小さい裂果、3以上:果肉に達する大きな裂果とした